

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会
2014（平成26）年度定時社員総会 議事録

1. 開催日時：2014（平成26）年8月26日（火） 11：50～12：55
2. 場 所：広島国際大学 呉キャンパス 7階メディアホール
（広島県呉市広古新開5-1-1）
3. 社員総数 94名（議決権は、各1個）
出席者数 66名（出席37名、うち議決権行使書提出者数21、委任状提出者数8（議長8））
※オブザーバー（協会正会員および学生会員）出席者数 24名

出席理事 繁成剛（会長（代表理事））、岩崎満男、沖川悦三、金井謙介、元田英一、剣持 悟、
相良二郎、鈴木聖貴、高原光恵、塚田敦史、畠中 規、古井 透、水澤二郎、宮野秀樹、
山形茂生

出席監事 井上剛伸、井村保

議決権行使書 21名

委任状：議長 8名

欠席理事 なし

議事録署名人

笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院）

森田千晶（杏林大学）

4. 審議事項

- | | |
|--------------------------|------------|
| 第1号議案 2013年度事業報告（案） | （資料1） |
| 第2号議案 2013年度決算報告（案）／監査報告 | （資料2）（資料3） |
| 第3号議案 2014年度事業計画（案） | （資料4） |
| 第4号議案 2014年度収支予算計画（案） | （資料5） |
| 第5号議案 公益認定申請の延期（報告） | （資料6） |

5. 社員総会資料

- ① 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2013年度事業報告（案）
- ② 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2013年度決算報告（案）
- ③ 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2013年度監査報告
- ④ 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2014年度事業計画（案）
- ⑤ 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2014年度予算計画（案）
- ⑥ 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会公益認定申請の延期

6. 議事の経過の概要及び議決の結果

総務統括担当の鈴木理事より、本日の社員総会は定款第28条、29条により定数を満たしたので、有効に成立した旨を告げたのち、繁成会長が定款第27条の規定に基づき議長に就任し、開会の辞を述べた。

審議は密接に関係する内容の第1号議案と第2号議案、第3号議案と第4号議案は一括説明とし、議案ごとに個別に決議することとした。

定款28条第1項

「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、社員総数の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長

の裁決するところによる。」

定款第 29 条第 1 項

「社員総会に出席できない社員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法により表決し、又は他の社員を代理人として表決を委任することができる。」

同条第 2 項

「前項の場合における前 2 条の規定の適用については、その社員は出席したものとみなす。」

第 1 号議案 2013 年度事業報告に関する事項

議長より社員総会資料①に基づき、その説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

■承認 66 名（出席代議員 37 名、議決権行使書 21 名、委任状 8 名）、非承認 0、棄権 0 名

◆資料訂正

- ・ P. 5 SIG 褥そう防止装置 代表者：廣瀬秀行→新妻淳子
- ・ P. 6 企画担当理事名：誤 宮野茂樹 正 宮野秀樹

◆質問・意見等（敬称略）

Q. 田中芳則（なごや福祉用具プラザ）：訂正をお願いしたい。P. 6 2-5 企画推進事業 1) 学会展示会、広報活動強化の 4 つ目 ウェルフェア 2013→ウェルフェア 2014

A. 繁成：間違いのため修正する。

第 2 号議案 2013 年度決算報告（案）／監査報告

議長より指名を受け財務担当理事より社員総会資料②に基づきその説明がなされた。

概ね予算に近い額で決算できている。その他の協賛金の内訳は復興支援講習会収入総額（協賛金と参加費）であるが、毎年度予算計上時は予測ができないため 20 万円のみ予算計上し、それに対する専門委員会経費も復興支援講習会分として予算計上時は 20 万円の計上となっているため、決算時に予算と相違が出ている。298,777 円の黒字決算となっている。

監事からも、復興支援講習会収入は本部会計に含まれその他の協賛金として計上しているが、復興支援講習会事業に運用するように指導を受けている。

次いで、社員総会資料③に基づき井村監事より、監査報告として会計監査および業務監査を行い、本会財産は適正に管理運営されており、また総会決議した年間事業は順調に執行されていたことが報告された。

会計監査としては、事業毎会計についてその事業目的および収入状況に応じて適切な予算計画・執行に取り組むとともに余剰金は適切に繰越・繰入を行うよう留意してほしい。業務監査としては、各理事の分掌事項に対する業務執行において努めていただいているが、役員選挙による理事分掌の引継が十分に行われなかったことにより、電磁的方法による理事会審議（みなし可決）とせざるを得ない案件も見られたが、次年度は電磁的方法による理事会審議が極力開催されないよう、理事会開催予定を十分に把握しての業務執行に心掛けてほしい。また 2014 年度も赤字予算を編成しなければならない状況であり、各理事においては分掌事項の業務遂行に留まることなく、一丸となり横断的な課題の検討を経て理事会での法人運営方針決定に努めてほしいとの監査報告がされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

承認 66 名（出席代議員 37 名、議決権行使書 21 名、委任状 8 名）、非承認 0、棄権 0 名

◆質問・意見等（敬称略）

Q. 岡田裕生（パシフィックサプライ株式会社）：誤植 P. 13 2013 監査報告の実施場所に記載内容：
誤 2104 年度 正 2014 年度

A. 繁成：誤植のため修正する。

第3号議案 2014年度事業計画(案)

議長より社員総会資料④に基づき、その説明がなされた。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

承認66名(出席代議員37名、議決権行使書21名、委任状8名)、非承認0、棄権0名

◆質問・意見等(敬称略)

- Q. 大鍋(新潟医療福祉大学):前国際担当理事であった関係で、国際関連事業の記載で、TREATS(台湾リハビリテーション工学会)もRESKO(韓国リハビリテーション工学協会)や我々(RESJA)と共同で活動したいと要望が出ていたがその後の動きはどうなったか教えていただきたい。
- A. 相良:3国(RESKO、RESJA、TREATS)で連携を結ぼうと準備をしていた中で、アジア全体でということが浮上し、一旦止まっている。今回i-CRETe(東南アジアリハ工学国際会議)との関係でミーティングが行われ、しっかりとした連携ではなく緩やかな情報交換程度を行っていくようなつながり方が提案されてきたので、改めてRESKO、RESJA、TREATS、いわゆる極東連携を進めていってもよいのかなという感じになったため、再度、台湾と連絡を取る予定である。なお、この総会資料をまとめた段階では白紙状態であったため事業計画には記載していない。
- Q. 大鍋:国連公開書簡の今後の動きが事業計画に記載されていないが、今年度は誰か会議出席したのか。
- A. 繁成:特に国連からの文書等は受け取っていない。
- A. 井上:WHO主催のためRESJAには話がきていないものである。日本では国リハと兵庫リハに連絡がいつていると思われ、国リハでは組織がフォローアップをしている段階のため、RESJAには連絡がきていない現状である。来年もあるためその際にフォローアップをしたいと考える。
- Q. 大鍋:繁成会長、畠中国際担当理事のところには何か連絡がきていないか。
- A. 繁成・畠中:特にきていない。
- Q. 大鍋:私の方で確認したい。世界は活発に動き出しているのに、RESJAが弾き飛ばされないようにしていただきたい。
- A. 繁成:ぜひご支援いただきたい。

第4号議案 2014年度予算計画(案)

議長より指名を受け、財務担当理事より社員総会資料⑤に基づき説明がなされた。

2013年度予算・決算に近い額で計上している。事業内容が増えており、それに伴い、予算要求も増額しているが、財務担当で精査し大幅削った結果、昨年度より減っているものの、100万円近いマイナス予算となっている。各事業効率よく支出を抑えた運営をすることをお願いしており、徐々に赤字予算が減っていくような会の運営のために、理事一丸となって、今まで以上の、会費収入増も含めていきたい。

議長は、その可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

承認65名(出席代議員36名、議決権行使書21名、委任状8名)、非承認、棄権0名

◆資料訂正

- ・本部会計の前期分繰入額 誤279,680円 正383,586円(※+103,906円)
- ・本部会計の次期分繰越・基金繰入額 誤670,196円 正-566,290円
- ・連結予算の前期分繰入額 誤2,268,453円 正2,372,359円
- ・連結予算の次期分繰越・基金繰入額 誤1,279,804円 正-1,383,710円

◆質問1(敬称略)

- Q. 吉田泰三(東北文化学園専門学校):連結予算の前期分繰入額が2013年度決算の次期分繰入・基金繰入額と相違があるので確認をお願いしたい。
- A. 沖川:調査して後日報告したい。

第5号議案 公益認定申請の延期(報告)

議長より指名を受け法人化担当理事より社員総会資料⑥に基づき公益認定申請の延期について説明がな

された。

2013 年度社員総会において、公益認定申請手続きに着手する旨提案し承認され、「国・都道府県公式公益法人行政総合情報サイト（公益法人 information）」へ登録を行い、電子申請手続きを開始した。現在、申請書、基本情報、組織、事業の一覧、公益目的事業について5項目（①リハ工学カンファレンスの開催、②福祉機器コンテストの開催、③リハビリテーションエンジニアリングの編集・発行、④国際協力、⑤支部活動）を登録した。申請にはこの他に、事業毎の財務状況を説明する多数の別表類の記入が必要であるが、これらは極めて専門性が高い難解なもので、会計士と相談のうえ、司法書士事務所等への委託が必要と考える。アウトソーシングを考え、コンサル料の相談見積りをとったところ150万円と高額だったため、あきらめた。また多くの一般社団法人が公益認定をあきらめた現状もあった。

また、公益認定基準18項目の中に「2.公益目的事業を行うのに必要な経理的基礎及び技術的能力を有するものであること」が定められている。当協会は2013年度予算案に引き続き2014年度予算案においても収支赤字を計上している。このままの状況が続けば、やがては破産状態となることを意味する予算案であり、このような状況ではこの必要な経理的基礎を有しているとはいいがたい状況にある。

一方、2014年3月末で既設社団・財団法人の公益移行手続きが終了したが、全国で15000の当該法人が一般法人を選択したとの報道があった。これは、現在の規定が小規模法人に対しては厳しい遵守規定となっているからではないかとの指摘があり、当協会規模で無理に公益認定を受けても、その地位を維持していけるのかということが懸念される。一旦公益認定を受けた後に不適切な対応を行うことは、社会的にも大きな瑕疵を残すことになる。

このような観点から、公益認定については、1) 当協会の基礎的体力が増えるか、2) 制度改定があり小規模法人に対する特例措置がとられるか、を待つべきと判断した。

準備だけは整えておき、タイミングを待つこととしたい。

◆質問・意見等：定刻が近づいたため、質問は協会事務局受付に申し出てもらうこととした。

なお事前募集した意見等は下記1件であり、総会資料2013年度事業報告のP.7 国際関連の事業のところにも記載しているが、詳細に関しては協会誌掲載の理事会議事録にて報告済みである。

◆意見（敬称略）

米崎：協会の運営に際し、色々とお取組みいただき感謝しております。もし可能であれば、先日の国連会議への参加状況等について詳しくご報告いただければと願います。RESNAのHPでも少し紹介されております。

議長は、以上をもって一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の2014（平成26）年度定時社員総会に関する全ての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（12時55分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長並びに議事録署名人は次に記名・押印する。

2014年8月26日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会2014（平成26）年度定時社員総会

議 長

繁成 剛



議事録署名人

笹川 友彦



議事録署名人

森田 千晶

